

のおくりもの 7
The Gift from Woods

No.358



これからの森では、植物たちの種子が実っているのを目にする機会が沢山あります。そして、その種子を食べるため、野鳥や昆虫をはじめ、さまざまな生き物たちがせわしなく動き回っている様子も観察することが出来ます。

植物が種子を実らせるのは自分たちの子孫を残すため、そしてそれを食べる生き物たちによって種子は遠くに運ばれていきます。食べた種子は生き物たちの糧となり、その生き物たちの繁栄につながる。こういったところで植物たちと森に棲む生き物たちは持ちつ持たれつの関係性を築いています。種子の散布方法はさまざまですが、生き物を含め、自然が織りなすピースのひとつが欠けてもこの森の豊かさは維持できません。

この情報誌の表紙を担当するにあたっては、私が普段、不思議に思ったこと、疑問に感じたことなどを書き連ねてきましたが、この駄文がこれを読む誰かの好奇心のタネになればいいな、と思っています。訳あって今号が私の担当する最後の表紙です。これまで本当にありがとうございました。

【写真・文：近藤晋也】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『狐の嫁入り』(きつねのよめいり)

東北地方は平年より7日遅い6月19日に梅雨入りが発表されました。雨が続き気温と湿度が高く、ジメジメ・ムシムシして不快になる時期ですが、かえてこの状況こそが適しているものがあります。ホタルの発生です。先日、夜のイベントを行った際にホタルの乱舞を見ることができました。淡い光を点滅させながら川の水面を何匹も飛び交う様子は、まるで夢を見ているかのように幻想的な光景でした。

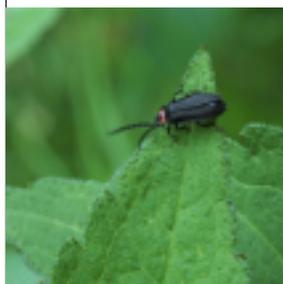
ホタルは、和歌に詠まれたり物語の題材にされたり蛍狩りが行われるなどの文化があり、古来より日本人に親しまれてきた身近な存在で、古くは日本書紀や万葉集に蛍の記述がみられます。現在ではホタルが生息できる環境が悪化し、わずかな数しか見られませんが、昔は今とは比較にならない程たくさんのホタルが見られたことでしょう。

「狐の嫁入り」という言葉があります。「夜、山野で狐火が連なって、嫁入り行列の提灯のように見えるもの」という怪異現象のことです。この言葉の由来や狐火については様々な説があります。提灯の古名は火垂（ほたる）というらしく、夜に提灯を持って歩いている様子を暗闇で見たら、ホタルが飛んでいるように見えるからなのでしょう。先日のホタルの乱舞を見た私は狐火について、ホタルや提灯を人魂と見間違えたものなのではという見解を持ちました。

昔は科学が発達していないし、わからないことだらけだったので、見間違えや思い込みを想像で解釈したり、言い伝えなどに結び付けて迷信が生まれたりしたのでしょうか。今はネットで何でも調べられる時代ですが、いまだに解明されていないことが結構あります。他人が考えたことを鵜呑みにせず、わからないことを不思議に思ったり、想像して考えたりするのもおもしろいです。

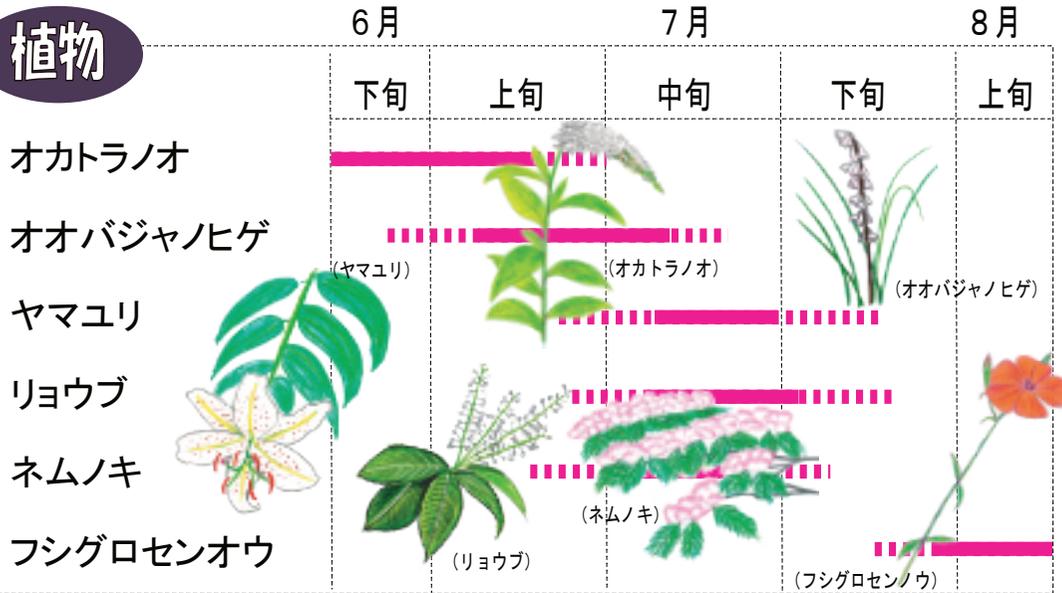
最近はいませんが、「狐の嫁入り」のもうひとつの意味は「天気雨」です。「日が照っているのに、急に雨がぱらつくこと」から、狐につままれたように思うからなのでしょう。

キツネもホタルも昔は身近だった生きものが、今はほとんど見られないという、寂しい世の中になってしまっていて残念です。【レンジャー：新田隆一】



7月の生物ごよみ

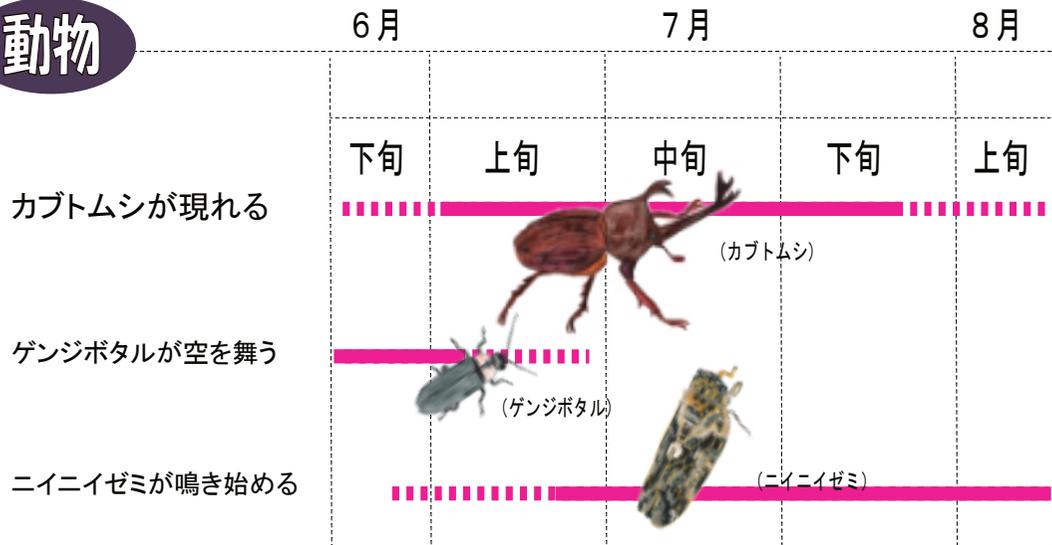
植物



6月26日の夜に『夜の森の観察会』が実施されました。今回も応募者が多く、15人の定員に対して128名もの応募がありました。参加出来なかった皆さん、本当に申し訳ございませんでした。この紙面を通してお詫びを申し上げます。さて観察会ですが天気にもめぐまれ7時40分ごろセンター周辺でゲンジボタルの発光が確認できました。温暖化の影響なののでしょうか。ホタルの発生も年々早まり、15年ほど前と比べ2週間ほど発生時期が早まったようです。この自然を次世代に残すため、いつまでもホタルが見られる環境作りを目指したいと思います。

【レンジャー：齋 正宏】

動物



森の「あれこれ」



「樹上の妖怪」



「え？あれ何?!」、朝早く観察の森に来た時のこと、センター北側にある大きなヤマグワの樹の数m上に、何か茶色い体がちらほら見えます。双眼鏡でのぞくと、なんと「テン」でした。明るい時に見られることはめったにありません。驚いたのはその動きで、まるで葉っぱの表面をすべるように移動して見えました。上の写真はその様子ですが、うまく伝わるでしょうか？枝から枝をつたって、ヤマグワの実を食べていたようです。体の色は褐色、顔が黒く夏毛なのがわかります。テンは木登りが上手なのは知識として知っていたし、今頃はクワの実の種みたいなつぶつぶがが沢山入ったフンもよく見えます。でも樹上のこんな姿を見るのは初めて。ずいぶん離れていますが、すでに気づいているのか時々こちらを見ているようで、やがて姿を消しました。後で調べてみると体長が44~55cm、体重は0.9~1.5kgとあります。ざっくりしたイメージですが四本の足におよそ300gずつ分散させながら移動するの？それにしてもヤマグワの上って歩けるの？まるで妖怪みたい。

実際、昔からテンをキツネやタヌキのように人を化かす妖怪のようにみなしていた地域もあって、三重県の伊賀地方では「狐七化け、狸八化け、貂九化け」（キツネやタヌキ以上にテンは化ける能力がある）という伝承もあります。昔の人は身近な生き物に不思議な力をみいだしていたのでしょうか…。今回は「早起きすると良いことがある」との話でした。

【レンジャー：木田秀幸】



森は糸 森は布



森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

オオムラサキは、タテハチョウの仲間では最大級の大きさを誇り、国蝶に選ばれている美しい蝶です。昨年8月15日にエノキへの産卵が確認されました。今年もその優雅な姿が見られるのを待ち遠しく思います。オオムラサキの数は全国的に減ってきているようです。この森のオオムラサキは大丈夫でしょうか。わずか1年の命ですが、その生活の様子を見ていきましょう。(^^♪

オオムラサキの雌が幼虫の食草であるエノキに産卵していました

10月、エノキの葉を食べる姿が葉を通して透けて見えます。

11月下旬、エノキの根元の落ち葉の裏側で越冬する幼虫、落ち葉のような色ですね。



4月になり、エノキの葉が芽生えると幼虫はエノキの幹を登ります。脱皮した幼虫は葉の色と同じ緑色になり、6月下旬から7月にかけて蛹になります。

羽化したオオムラサキは、クヌギ等の樹液を吸い、相手を見つけて交尾します。写真はオスですが、オスは雌より少し早く羽化し、雌より早く一生を終えることが多いようです。7月下旬頃には、雌を多く見かけます。

オオムラサキの雌は幼虫の食草であるエノキを前脚のふ節で味を確認するようにして確実に探し当てます。エノキがなければ産卵も幼虫が生きることができません。成虫はクヌギ等の樹液を吸うのでこれらの樹木も必要です。また、幼虫の冬越しには寒さを防ぐ落ち葉の布団がなくてはなりません。1頭の雌の産卵数は約400個、しかし成虫になれるのはその1%と厳しいものです。しかもアゲハ等とは違って幼虫の期間が長く、発生は年に1回のみです。

今年も4月に越冬した幼虫が木を登っていました。青々としたエノキの葉でやがて蛹になる準備が進んでいるのでしょうか。夜の森で羽化を成功させ、優雅で力強い姿をぜひ見せてほしいものです。(^^♪【レンジャー：菅原幸彦】



7月のイベント & お知らせ



イベント

◆小さな自然の世界をのぞく観察会

肉眼では見えないような小さな生き物をさがし、ルーペなどで観察します。

【日 時】7月17日(土) 午前10時～12時

【対 象】小学校3年生以上の子どもと保護者10名

【持ち物】飲み物、帽子、タオル、虫よけ、雨具、歩きやすい服装と靴

【申込み】電話またはEメール taihakan_moushikomi@sendai-green-association.jp

◆どうぶつの森観察会

【日 時】7月23日(金・祝) 午前10時～11時半

【対 象】小学生以上 【定 員】10名

【持ち物】飲み物、帽子、タオル、虫よけ、雨具、歩きやすい服装と靴

【申込み】7月6日9時から電話にて(先着)

◆セミの羽化を観察しよう!

【日 時】7月24日(土) 午後7時半～9時

【対 象】小学校3年生以上 【定 員】10名※中学生以下は保護者同伴

【持ち物】懐中電灯、虫よけ、雨具、歩きやすい服装と靴

【申込み】住所、参加者全員の氏名、連絡先、子どもの年齢を記入の上、7月12日まで(必着)※一通につき4人まで

～退任のご挨拶～ 【前館長 近藤晋也】

突然のご報告ですが、7月1日付で別な部署に異動することとなりました。

3年前に着任した時、覚えなければならぬことがあまりに多く、途方に暮れていたことはまるで昨日のこことよう。それでも、職場の仲間(本当にありがとう!)や森に来て下さるお客様の支えもあり、とても楽しく仕事をさせていただきました。

私たちの仕事は、「人」と「自然」の橋渡しをすることですが、私と皆様とを繋いでくれたのはこの森の「自然」でした。私にとってはこれが一番の「森のおくりもの」です。これからは一応援団としてこの森に関わっていきます。皆様、さようなら、お元気で!!

ガイドウォーク

毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

時 間: ①10:00～11:30 ②13:30～15:00

休館日

5日, 12日, 20日, 28日

※毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合はその翌日

観察の森へのアクセス

宮城交通バスの場合

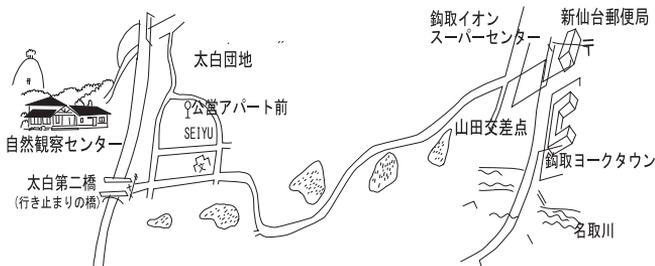
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘庫車行」乗車

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘経由山台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター